

へばだば 49

編集・発行／自立生活センターPingあおもり 就労継続支援B型事業所スタジオとまと 特定非営利活動法人ピアネット
038-0011 青森市篠田1-8-1 エムズコーポ101/tel./fax.017-761-2770/e-mail,ping@ping-aomori.jp
http://www.ping-aomori.jp/ping_page/index.htm 発行責任者／佐藤 広則

「へばだば」＝津軽弁で、「じゃあね」というような意味。

第24回 全国自立生活センター協議会協議員総会、全国セミナー 参加報告



報告：自立生活センターPingあおもり 事務局長 松野潤

2015年度の「全国自立生活センター協議会協議員総会、全国セミナー」が、6月24日（水）～6月26日（金）の3日間にわたり、仙台市で開催されました。Ping あおもりからは、代表、事務局長、当事者スタッフと介助者2名の計5名の参加です。

参加者は300人を超え、昨年度の総会で制作発表された尊厳死法案反対のビデオ上映や、コスタリカの自立生活センター モルフォのイケメン代表ルイスさんの講演などで大いに盛り上がりました。

総会では、知的障害者、精神障害者のサポートを継続していくこと、中山間地域、自立生活センターの空白地域対策を検討していくことを再確認しました。

※セミナー詳細は別紙をご覧ください

コスタリカ産コーヒー初上陸！



会場内のコスタリカ産コーヒー売り場。売上げの一部は自立生活センター モルフォの活動資金になるそうです。Ping あおもりは6袋購入しました。

第24回JIL 総会・研修会参加報告	1	電動車いすサッカーチームPSCAジャーナル	3
別紙1・2		溝江広騎の好奇心旺盛日記	3
ユースパワーネット対面会議に参加して	2	とまとの収穫祭	3
青森第一養護学校進路講話	2	新職員の紹介	4
青森第一高等養護学校から実習生がやってきました！	2	お盆休みのお知らせ	4
スタジオとまとの清掃活動	2	フリーマーケットにご協力をお願いします	4
お花見に行きました	3	編集後記	4

ユースパワーネット対面会議に参加して

自立生活センター Pingあおもり 溝江 広騎

6月26日、27日の2日間、仙台市長町にあるCILたすけっと事務所で行われた「ユースパワーネット対面会議」に出席してきました。

「JIL ユースパワーネット」は、JIL（全国自立生活センター協議会）が2009年に立ち上げたプロジェクトで、①次世代の自立生活運動を担う若手障害者の発掘・育成、②若手障害者のスキルアップ、③若手障害者のネットワーク構築などを目的としています。

各地域の代表者1～2名が全国から集まるこの会に今年度から参加することになったのです。

会議の主な議題は、①9月下旬に実施予定の広島合宿企画、②12月に福岡で開催されるJIL全国セミナー内での発表内容企画の2つでした。

広島合宿企画では、Mazda Zoom-Zoomスタジアムでの球場バリアフリーチェック、広島お菓子博で差別を受けた方の体験談講話、広島の自立生活センタースタッフの講話などを実施することに決まりました。

JIL全国セミナー内での発表内容企画では、パワーポイントを活用したユースパワーネットの宣伝、ユースメンバーの各センターでの活動報告、ユースパワーネットの冊子を作成すること、などが決定しました。

今後は毎月第2金曜日に行われるスカイプ会議で意見を出し合い、準備を進めて行きます。お互いに高めあえる関係性を構築していきたいと思います。

青森第一養護学校 進路講話

スタジオとまと 佐藤広則・佐藤真理子

青森第一養護学校の進路講話で話をしてきました。主に肢体不自由の子供たちが学ぶ小・中の学校です。

参加者は小学部1名、中学部9名、教師12名、他保護者数名でした。

初めに佐藤広則が、現在に至るまでの仕事と生活について。そのあと、スタジオとまとの活動についてプロジェクトで写真を写しながら紹介しました。

「うまく人に話すことができないがどうすればいいか」「仕事に行きたくない日はどのようにして仕事に行くのですか?」「ケーキ屋さんになりたいけど病気があるから不安だ」「家でできるようになってほしいことはなんですか?」など、他にもいくつか質問を受けました。

中学生に「大人になる」ということについて話するのはとても難しいことでしたが、親に頼らず自分の頭で考えて、自分で決められる人になってほしい。それは大人になれば自然にできるわけではなく子供のうちから練習が必要であることなど、話をしました。

青森第一高等養護学校から 実習生がやって来ました!

6月29日(月)～7月3日(金)までの5日間、
青森第一高等養護学校3年長崎真人さんがスタジオ



とまとへ現場実習にやって来ました!

主な実習内容は、①インターネット検索、②パソコン文字入力、③調理実習（料理選択・買い物・職員に指示を出しての調理・実習報告書作成）、④お話会（障害当事者だけでテーマを決めて話す）、⑤事業所周辺のゴミ拾い、の5つでした。

長崎さんが特に楽しみにしていたのが調理実習。インターネットでレシピを検索し、「鶏肉中華飯」を作ることに決定。買い物・調理・報告書作成では、とまと職員をヘルパーに見立て指示を出す練習をしました。指示を出すことに戸惑いが見られましたが、何事も慣れが肝心!良い経験になったのではないかと思います。

今回の実習を活かして、後期の実習も頑張ってください!スタジオとまと一同、応援しています!

スタジオとまとの清掃活動

スタジオとまとでは毎週金曜日に事務所周辺のゴミ拾いを行っています。(冬季や雨天時以外)

その週によりゴミ拾いに行くコースが違ったりするのですが、たばこの吸い殻を拾う比率が一番多いです。空き缶、クギのような金属片もよく拾います。

時には女性用下着を拾ったりして「なんでこんなものが落ちてるんだ」と驚いたこともありました。



＊ お花見に行きました

4月27日、合浦公園にてスタジオとまとお花見が行われました。

例年、スタジオとまのお花見は悪天候に見舞われることが多かったのですが今回はお天気に恵まれました。

しかし今年は例年に比べても天気の良い日が続



いていたので、葉桜になっている木も多かったです。

参加者は各々屋台で食べ物を買って食べたりして過ごしていました。

電動車いすサッカーチーム

PSCAジャーナル

プレーヤーサポーター大募集中です。

電動車いすを持っていない方でも、共用の車いすがあるのでプレイできます。

練習場所：一高養体育館

時間：17:00～18:30

練習日時：7月10日・17日 8月28日

9月11日・25日 10月2日・16日

参加希望の方は事前連絡頂けると幸いです。

詳しくは e-mail: tomato@ping-aomori.jp

代表：佐野まで



フェイスブック
始めました。



満江広騎の好奇心旺盛日記

はじめまして。6月1日からスタジオとまと支援員兼 Ping あおもりスタッフとして勤務させていただいています満江広騎です。持ち味は行動力と発信力！（自意識過剰ですみません笑）色々な場に積極的に参加して、広報部長的な役割を果たしていきたいと思います！

ということで、入社して早々色々なイベントに参加してきたので報告をします☆

6/5（金）アップルワーク総会参加

障害者の就職を支援する会社の方や特別支援学校の先生方が集まる総会・研修会に参加してきました。その方にあった仕事内容や相談しやすい雰囲気作りの大切さを改めて学びました。

6/6（土）青森県立青森第一養護学校運動会訪問

母校である青森県立青森第一養護学校の運動会に行ってきた。先生方とお話させていただいたり、事業所のパンフレットを掲示していただきました！ありがとうございます！

6/6（土）青森NPOサポートセンター総会出席

6/13（土）青森県立青森第一高等養護学校運動会訪問

事業所のパンフレットを掲示していただくとともに、現場実習で来所予定の生徒さんとお話してきました。

6/14（日）青森県立盲学校運動会訪問

青森県立盲学校に初訪問させていただきました！今後ともよろしく願いいたします！

**これからもアクティブに行動！
情報を発信していきます！！**

とまとの収穫祭

6月19日、とまとの収穫祭にて昼食会をして「おにぎらず」を食べました。

なかなかのボリュームという感じでしたが、お弁当などには合う一品だと思います。



部屋がもうジャングル状態になってます。(J)

第24回 全国自立生活センター協議会協議員総会、全国セミナー 参加報告**ドキュメンタリー映画「風は生きよという」上映会&トークセッション**

「風は生きよという」は、人工呼吸器を利用しながら地域で生き生きと暮らしている重度障害者を紹介するドキュメンタリー映画です。人工呼吸器を使わなければ生きられないほどの障害がある人も、適切なサポートがあれば、地域で自分らしく生活出来ることを知ってもらい、「延命治療してまで生きていたくない」、「尊厳死法案は良いのでは？」という多くの人が持つ価値観が変わることを願って製作されました。

【映画出演者、内容】**海老原宏美さん**

障害は脊髄性筋萎縮症。自分の意思を大切にしたいと自立生活を始めました。

映画の中では、介助者に指示を出して料理を作ってもらったり、車椅子で散歩中、子供に気さくに話しかけたりする姿が紹介されています。海老原さんは「かわいそうと言われることがまだある。出来ない事の多い中で、少しでも外に出て、障害者の存在を知らせたい。」と思いを語っています。

渡辺哲也さん

障害は筋萎縮性側索硬化症(ALS)。介助サービスを利用しながら、家族と暮らしています。

現在、気管切開をし、話すことが出来ず、体のほとんどが動かない状態ですが、目と口の動きなどで会話をすることができます。渡辺さんは「今まで生きることをあきらめなかったから、今の生活が出来ている。みんな出来ると思う。」と訴えています。

新居優太郎さん

出産の時の事故で障害を負い、現在出来るのは瞬きのみ。撮影時は中学生でした。

小学校は特別支援学校。物足りないと感じ、普通の中学校に進学しました。他の生徒と一緒に授業を受ける様子が紹介されています。さらに、普通の高校を目指し入学試験に挑戦しています。

児玉真美さん

医療・福祉などをテーマに執筆活動をしているライター。障害のある娘を持っています。

児玉さんは「尊厳死法案には3つの問題がある。1つ目は、終末期はどう定義するのか？ 2つ目は、医療・介護の充実が先ではないのか？ 3つ目は、尊厳死を求められるのではないのか？ 生きていい命と生きてもしょうがない命があるという考えがあるが、この法案が通ると、この考え方が正当化される恐れがある。」と警鐘を鳴らしています。

【トークセッション】**「風は生きよという」について**

渡辺哲也さん「医療的ケアが必要でも、こんな風に生活できるというところを見て欲しい。」

海老原宏美さん「この映画を広げていきたい。地域の映画館で上映してもらおうよう交渉して欲しい。自主上映会、メディアへの宣伝もお願い。」

ALSの自立生活プログラム(ILP)について

河本満幸さん「渡辺さんのところの自立生活センター 北見と、私のところのCIL下関では、ALSのILPをしている。ALSの人は、一定の社会経験をしていて、賢く、上から目線になりやすいという難しさがある。私の場合「私の方が重度障害者として先輩だ!」と言って黙らせる。」

渡辺哲也さん「ALSは進行が早いので、通常のILPと違い、重度障害者としてどのように生きるかを重点的に行う。また、家族と暮らしている人が多いので、家族のILPも同時に行う。」



オラ アミーゴ!! 中米初 コスタリカの自立生活センターの活動

コスタリカ共和国のペレスセレドンにある、自立生活センター モルフォのルイス・エルナン代表が、自身の障害や自立生活センター立ち上げについて語りました。

以下、「私はよく「イケメンですね!」と言われますが、みなさんどうですか?」から始まった、ルイスさんの講演内容です。

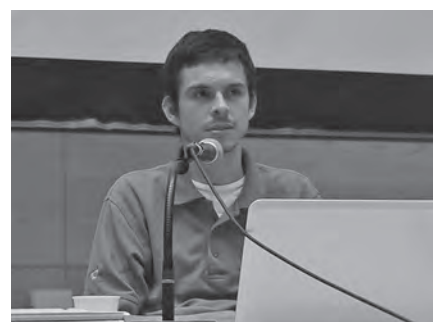
【講演内容】

私が障害を負ったのは11年前。職業訓練学校を出て就職し、人生を謳歌していた時です。

私は、一杯ひっかけた後、いい気分で川に飛び込みました。そして川底に激突。頸椎を損傷しました。2ヶ月間、集中治療室のベッドの上にいました。コスタリカでは川に飛び込むことがスリルのある遊びで、若者の障害者の多くがこうして生まれます。

退院してから数年間、バリアフリーとはほど遠い自宅で生活していました。ちょうどその頃、国際協力機構(JICA)の技術協力プロジェクト・カロイエが立ち上がりました。このプロジェクトはコスタリカ南部の障害者の生活向上が目的で、私の家にもJICAの人が来てくれました。しかし、当時の私は弱々しく、人と話さず、隔絶された生活を送っていました。障害を受け入れられずにいました。

そんな中、2008年、セミナーに参加することになりました。講師はメインストリーム協会の廉田(かどた)俊二さん。セミナーでは「障害が治る薬があったら飲むか?」と聞かれ、どう答えたらいいかわかりませんでした。「日本で研修するけど来たいか?ただし、父母同伴は駄目」という問いかけにも、できるわけがないと思いました。



徐々にプロジェクト・カロイエに参加するようになると、自信が湧いてきました。そして2009年、日本での研修に参加することになりました。家族以外の介助者を探すのは大変でしたし、介助者に自分に必要な介助を1から10まで説明するのも大変でしたが、人として成長するいい経験だったと思います。この研修では「障害者になってリミットはできたが、以前と変わらない」、「障害を受け入れ、自分の中の可能性を引き出す」ことを学びました。

帰国後、コスタリカで自立生活運動を根付かせる必要性を感じ、ペレスセレドンに自立生活センターを立ち上げることを提案しました。

こうして始まったのが、JICA草の根技術協力プロジェクト・モルフォです。このプロジェクトはペレスセレドンで障害者が介助者を使って生活できるようになることが目的です。そして2012年、自立生活センター モルフォを立ち上げました。「モルフォ」とは中南米に生息する美しい蝶で、幼虫からサナギ、成虫へと成長する様を自分たちと重ねました。

現在、介助者の募集や育成、ピアカウンセリングや自立生活プログラム(ILP)などの様々なサービス提供を確立できるように活動しています。これからも、自立生活センターの活動を通して、コスタリカでも障害者が介助者を使って楽しく生活できるということを、自分たちが示していきたいと思っています。

情勢報告

障がい者の生活や人権に関わるいくつかの懸案について報告があった。

○障害者総合支援法の見直しについて

障害者総合支援法は、施行後3年(平成28年4月)を目途に見直すことになっており、現在、それに向けた協議をしている。「知的・精神障がいへの重度訪問介護の拡大」や「入院中の介助利用」などを、引き続き、重点的に求めている。また、介護保険との統合論が再燃しない様に注意したい。

○障害者差別解消法について

1,000件を超えるパブリックコメントが集まったため、良い方向に修正された。パブリックコメントは非常に重要なので、継続的な協力をお願いする。

